

治水事業の効果

はげがわ かこう どうりゅうろ

波介川河口導流路が効果を発揮(平成25年台風27号に伴う大雨)

- 仁淀川水系波介川では、昭和50年8月の台風5号による豪雨災害等を契機に、仁淀川と波介川との合流点を仁淀川河口に付け替え波介川の洪水を流れやすくする波介川河口導流事業に着手し、平成24年6月より運用を開始。
- 台風27号が接近した影響で、仁淀川流域平均の雨量(10月23日～25日)は波介川河口導流路の運用開始以降最大となる457mm(速報値)を観測。
- 導流路の整備により、波介水位観測所地点において約1.3m水位を低減し、**氾濫注意水位以下に抑える**とともに、これにより波介川流域において雨水を排水しやすくするなどして、**約230haの浸水被害を防いだ**ものと推定。

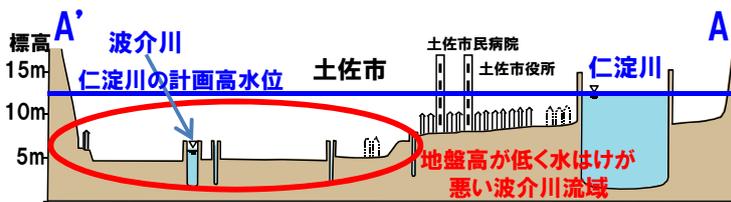
波介川について

波介川流域

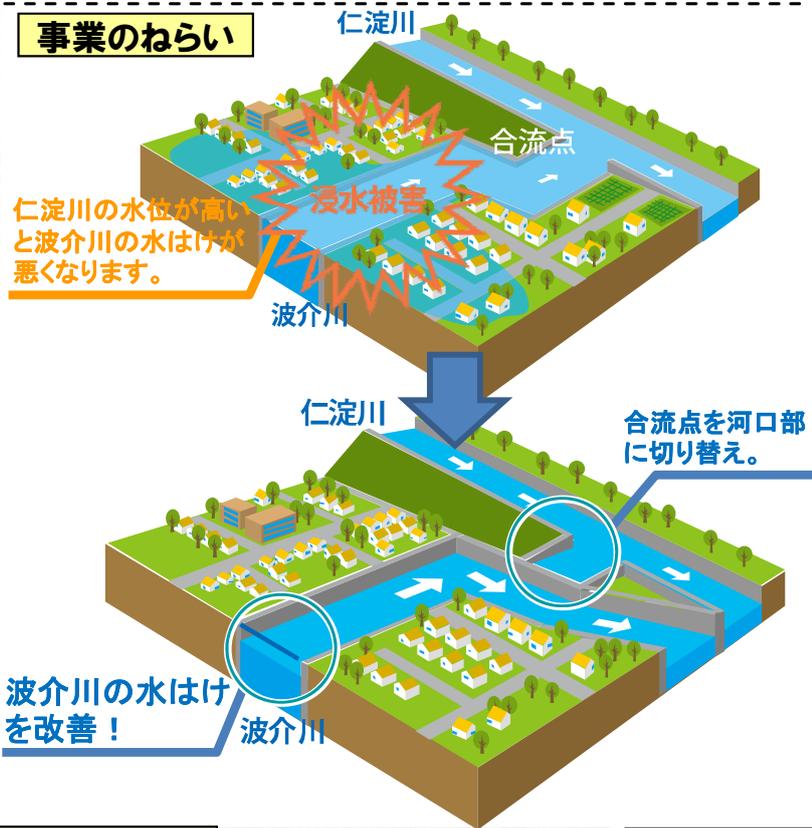


・波介川は、仁淀川の河口から2.0km付近に合流する土佐市を貫流する支川。
 ・波介川は上流へ行くほど地盤が低い地形であることに加え、仁淀川本川の水位上昇の影響で水はげが悪くなることが多く、土佐市中心部は度重なる水害に悩まされてきた。

A-A' 断面図



事業のねらい



整備状況



台風27号に伴う大雨時の効果

(導流路が無かった場合 想定される浸水範囲図)

想定される浸水範囲
約230ha

導流路の整備効果により
浸水を防止



波介水位観測所
 導流路の整備効果により
 水位を約1.3m低下
(氾濫注意水位以下)